



嬉野市立大野原小中学校

高原の風

令和4年7月20日 第7号

文責 校長 武藤 敏

学校教育目標

「かがやく大野原っ子の育成」

～ 新しいことに挑戦 様々な人との協働 社会に貢献 ～

☆ やる気いっぱい ☆ 笑顔いっぱい ☆ 元気いっぱい ☆ わくわくドキドキいっぱい

大野原高原の歌、コンクール出場へ

来る8月10日佐賀県 NHK 音楽コンクールに小学校5、6年生と中学生が出場します。昨年度完成した「心の故郷」（作曲：岩永ゆり先生、作詞：大野原小中学校児童生徒）を佐賀市文化会館で披露することとなりました。構成は、①歌による発表（小学生、中学生）、②歌（小学生）＋バイオリン（中学生）③歌（小学生中学生）（英語歌詞）による発表となります。総合的な学習の時間や各教科での取組で多くの工夫が入れられている「心の故郷」です。コンクールですので、審査がありますが、目的は、練習の成果を発表し多くの方に知ってもらうことです。結果にこだわらず、堂々と発表してほしいと思います。



（7月14日にNHK佐賀の取材を受けました。）

一学期前半最後の授業参観等！



7月15日（金）一学期前半では最後になる、保護者の方々を招いて子供たちの様子を見ていただきました。まず、親子給食です。感染対策もあり親子の会話はできましたが「親子黙食…」になりました。すみません…。子供たちが日頃口にしている、美味しい給食はいかがだったでしょうか。

その後、子供たちも楽しんでいる「水泳大会」…だったの

ですが、丁度、雨雲がかかって大雨となり、やむなく中止とさせていただきました。しばらくしたら雨も止んだのですが、雷が鳴っていたので中止



して良かったと思っています。水泳大会の代わりに、急遽決まった音読集会でしたが、どの学年も臆することなく堂々とした発表を披露してくれました。

音読発表会後は、1，2年生は、まち探検の発表をお家の方に見ていただき、5，6年生は、国語の発表会を参観していただきました。3，4年生は、バイオリンの演奏をお家の方々に教えるという企画で「そうじゃなくて〜っ!」、「うむ?上手い!」など、お互いに楽しみながら授業が出来ていたようです。学校でのお子さんの様子をご覧になっていかがだったでしょうか。



夏休み前、心肺蘇生法研修会(PTA 主催)

7月15日(金)19時より、PTA主催の心肺蘇生法の研修会を開催しました。大野原地区は夏休みに学校のプールを開放し、保護者の皆様にプール監視をお願いしております。そこで、起きてはならないことですが、遊泳時に事故等が発生した場合の対処方法をご理解いただくために研修を受けていただきました。嬉野消防署から2名の講師をお呼びして、なぜ、AEDが必要なのか、AEDをどのように使えばよいのか、実際に心肺蘇生法を体験する、といった研修会でした。

実際の講話では、①『反応(意識)の確認』⇒②『助けを呼ぶ』⇒③『気道の確保』⇒④『呼吸の確認』⑤『胸骨圧迫(心臓マッサージ)』※人口呼吸は省略してもよい。などの内容を教えていただきました。

【AEDの装着について】

- ・電極パットは、右前胸部(右鎖骨の下で胸骨の右)および左側胸部(脇の5～8cm下)の位置に張り付ける。
- ・肌が濡れている場合は、電極パットを貼る場所をしっかりと拭き取る。
- ・電極パットは、肌とのすき間を作らないようにしっかりと貼る。



誰もが、いつ緊急事態の場所に遭遇するかも知れません。定期的に心肺蘇生法の講習を受講することで、緊急時の冷静な対応につながります。

一学期前半が終了します。

4月当初から順調に進みだし、そのままの勢いで来た人、途中でペースを落とし自分と向き合った人、初めのスタートに戸惑い、途中から順調に進みだした人など、それぞれの過ごし方があったと思います。みんなが、一学期前半を振り返り、できたことを続け、さらに磨きをかけ、できなかったことに再挑戦するなど、次への準備をするのが夏休みです。夏休みを利用して、多くのことに挑戦してほしいと思います。



----- (切り取り) -----

ご意見・ご感想等ありましたらお寄せください。